

3年『1分間で説得できるようにプレゼンテーションの構成を工夫しよう』

○評価問題および単元・教材のポイント

【単元・教材の目標】

近年、高校入試では「思考力問題」として全国学力・学習状況調査の活用問題との関連を想起させる問題が出題されている。多様なテキスト（文章、図表、図版など）から必要に応じた情報を取捨選択し、情報を関連づけたうえで、条件に応じて求められた内容を記述するような設問である。

本評価問題は、中学校・高等学校（国語総合）間の「話すこと・聞くこと」の系統性を意識し、プレゼンテーションを行う言語活動のプロセスを設問として取り上げた。問題の作成の際には、以下に示す【評価問題構想表】を作成し、言語活動・指導事項・学習活動・設問の内容の関係を明示した。「関連する全国調査（H25—H29）」では、それぞれの指導事項と関連する過去の全国学力・学習状況調査（H25—H29）を抽出し、設問作成の参考となるようにしてある。加えて、評価問題の各設問と本単元案の学習活動の対応関係についても明示している。

本単元ではプレゼンテーションのための資料（フリップ）と発表原稿を作成し、実際にクラスに提案する学習活動を行う。ここで取り上げられる「文化祭での募金額を増やすにはどうしたらよいか。」といったテーマは、中高生の実生活の中で起こりえる課題であり、プレゼンテーション能力とともに課題解決能力が求められる。目の前の課題を解決したり改善したりするにはどうすべきかを考え、それを自分一人ではなく、集団の協働によって解決するために他者を説得するという能力は、生産年齢の減少、成熟社会、社会構造・雇用環境の変化といった個人と社会とのつながりがますます求められる時代にあって、必須の力といえるだろう。

【評価問題構想表】

|             | 指導事項     | 時             | 学習活動   | 設問  | 設問の内容                           | 関連する全国調査(H25-H29)   |
|-------------|----------|---------------|--|---|---------------------------------|---|
| 一分間で人を説得しよう | [知識及び技能] | 3<br>(2)<br>イ | 1<br>昨年の文化祭に関する振り返りや反省を各班で行い、次の文化祭に向けての「提案内容」を話し合い、決定する。その上で、提案に必要な情報を収集し、プレゼンに必要な情報を整理する。         |   |                                 |   |
|             | 話すこと     | ア             |  |   |                                 |   |
|             | 話すこと     | イ             | 2<br>3<br>実際のプレゼンテーションの動画を視聴し、資料作成の際の工夫や発表原稿の構成、話し方における効果的な方法について話し合い、整理する(2時間め)。実際に資料を作成する(3時間め)。 | 1   | 2種類の資料を比較して、効果的な資料の作成のための工夫を選ぶ。 | H29A <sup>2</sup> <sub>二</sub> , H29B <sup>2</sup> <sub>三</sub> , H28A <sup>1</sup> <sub>一</sub> , H28A <sup>5</sup> <sub>二</sub> , H27A <sup>1</sup> <sub>一</sub>  |
|             | 話すこと     | ウ             | 4<br>話す速さ、声の大きさ、間の取り方、ボディランゲージ、資料を示すタイミング、時間配分に注意しながら、話し方の練習を行う。                                   | 2   | 資料を示すタイミングとして適切な箇所を選ぶ。          | H29A <sup>2</sup> <sub>一</sub> , H29A <sup>7</sup> <sub>一</sub> , H29B <sup>2</sup> <sub>一</sub> , H28A <sup>1</sup> <sub>二</sub> , H28A <sup>5</sup> <sub>一</sub> , H27A <sup>1</sup> <sub>二</sub> , H27B <sup>1</sup> <sub>一</sub> , H27B <sup>1</sup> <sub>二</sub> , H27B <sup>1</sup> <sub>三</sub> , H26A <sup>1</sup> <sub>一</sub> |
|             | 話すこと     | ウ             |  | 3<br>事前のプレゼンの練習を行い、助言を行う。その助言を踏まえて、発表原稿を書き直す。 |                                 | プレゼンに対する助言をふまえて、具体例を加えて書き直した原稿の一部(一文)を書く。   |
|             | 書くこと     | 2年ウ           |  |   |                                 |   |
|             | 聞くこと     | エ             | 5<br>各班からのプレゼンを評価シートに基づき、評価・コメントを行う。   |   |                                 |   |
| 話し合うこと      | オ        |               |  |   |                                 |   |

## ○設問および学習活動のポイント

〔知識及び技能〕の指導事項は、3年(2)「情報の扱い方に関する事項」イ「情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。」を位置づけている。出典を確認すること、同じ事柄について複数の情報源を照らし合わせながら確認すること、複数の情報に当たることといった情報の信頼性を確認する方法について、本単元第1時に取材の留意点として確認する必要がある。プレゼンの直後には質問タイムを用意し、情報の信頼性を保つことの実践的な必要性についても意識できるように学習計画を立てることも大切である。

設問1は、2種類のフリップを比較し、効果的な資料作成の工夫について問うている。対応する学習活動（第2時）では、フリップの比較ではなく、プレゼンテーション動画の視聴から工夫されている点を取り上げる活動が設定されている。あるいは、教師自身による1分間プレゼンテーションの実演なども効果的である。そのうえで、プレゼン資料の作成を行うこととなる（第3時）。プレゼン用資料を作成する際は、字の大きさや色、記号の使い方などを工夫することが求められる。第2時で整理した資料作成の工夫の観点を意識して作成することができるように、前時を振り返りながら活動することが必要である。

設問2は、フリップを示す適切なタイミングを問うている。発表原稿では、資料（フリップ）提示のタイミング、伝える情報の順番など、聞き手を意識した構成の工夫が求められる。加えて、実際のプレゼンの際には、話の速さ、間、抑揚、身振り手振り、姿勢などの話し方も工夫する必要がある。一方、プレゼンを聞く側の評価の観点を整理することも大切である。批評・助言し合う活動を設定し、学習者相互の協働の場を設定する。その際に助言は、期待できる効果にふれながら発言できるように助言・批評のモデル（設問3【山田さんの助言】）を示したり、フロア評価シート（末尾に示す）などを活用したりすることが効果的である。

設問3はその助言をふまえてより説得力のある具体例を原稿に書き加える問題である。第5時で、プレゼンの本番が行われるが、フロア側は評価シートに基づいてプレゼンの評価を行う。この評価シートは第2時に抽出したプレゼンの工夫の観点に基づいて学習者と確認をしながら作成したい。フリップ作成・原稿作成の際の助言の際にも活用するとプレゼンに必要な技能が常に意識され、いっそう効果的である。

なお、設問3は「話すこと」ウで設問を作成しているが、設問中の【山田さんの助言】の発言部分を一部あるいは全て空欄にすることによって「聞くこと」エを問う設問へと変更することも可能である。

本稿では、指導事項との関係を視覚的に捉えながら、評価問題、単元計画、ワークシート（フロア評価シート）を作成している。指導事項との対応関係を意識できるツールを利用することによって、指導事項を学習活動の中にはっきりと位置づけることができる。

## ○単元・教材の目標とポイント

### 【単元・教材の目標】

- ・プレゼンテーションの特徴について理解を深める。

〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方に関する事項(1)ウ

- ・提案内容を明確にし、聞き手を説得できるように、資料の内容や提示の順序を考えて、話の構成を工夫する。

〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)イ

### 【関連する言語活動例】

- ・提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(2)ア

○評価規準

| 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|---|--|
| ① 情報の信頼性を確認する方法について理解している。<br>〔知識及び技能〕 (2) イ | ① プレゼンテーション動画の工夫について整理している。<br>A話すこと・聞くこと(1)イ<br>② 動画での工夫を取り入れて、フリップ作成を行っている。<br>A話すこと・聞くこと(1)ウ<br>③ 話の構成、話す速さなどさまざまな点について工夫し、自分の考えをわかりやすく表現している。<br>A話すこと・聞くこと(1)ウ | ① 聞き手を意識した効果的なプレゼンテーションを行おうとしたり、プレゼンテーションについてコメントをしようとしていたりしている。 |

○学習指導計画（全5時）

| 一分間で人を説得しよう | 指導事項     |       | 時 | 学習活動  | 評価規準   |
|-------------|----------|-------|---|---|--|
|             | 〔知識及び技能〕 | 3(2)イ |   |   |  |
|             | 話すこと     | ア     | 1 | 昨年の文化祭に関する振り返りや反省を各班で行い、次の文化祭に向けての「提案内容」を話し合い、決定する。加えて、情報の信頼性の確かめ方について確認したうえで、提案に必要な情報を収集し、プレゼンに必要な情報を整理する。 | 知識①:情報の信頼性を確認する方法について理解している。<br>ノート  |
|             | 話すこと     | イ     | 2 | 実際のプレゼンテーションの動画を視聴し、資料作成の際の工夫や発表原稿の構成、話し方における効果的な方法について話し合い、整理する(第2時)。実際に資料を作成する(第3時)。                      | 思考①:プレゼンテーション動画の工夫について整理している。<br>ノート(第2時)<br>思考②:動画での工夫を取り入れて、フリップ作成を行っている。<br>作成資料(第3時) |
|             | 話すこと     | ウ     | 3 | 話す速さ、声の大きさ、間の取り方、ボディランゲージ、資料を示すタイミング、時間配分に注意しながら、話し方の練習を行う。   | 思考③:話の構成、話す速さなどさまざまな点について工夫し、自分の考えをわかりやすく表現している。   |
|             | 書くこと     | 2年ウ   | 4 | 事前のプレゼンの練習を行い、助言を行う。その助言を踏まえて、発表原稿を書き直す。  | プレゼンの観察<br>ノート(プレゼン原稿)   |
|             | 聞くこと     | エ     | 5 | 各班からのプレゼンを評価シートに基づき、評価・コメントを行う。   | 態度①:聞き手を意識した効果的なプレゼンテーションを行おうとしたり、プレゼンテーションについてコメントをしようとしていたりしている。<br>プレゼン及びフロアの観察       |

○ワークシート（フロア評価シート）

プレゼンテーションを言語活動として取り上げる際には、「聞くこと」の指導内容を明確に位置づけることが重要である。フロア評価シートは聞き手（フロア）がプレゼンを評価する際に使用する。このシートは指導事項との対応関係を意識して作成している。指導事項との対応関係を捉えることで、ワークシートも指導内容と直結させて作成することができる。

【評価シート構想図】

| 評価シート       |   | 指導事項         |          |   |
|-------------|---|--------------|----------|---|
| 取<br>材<br>力 | 情報の信頼性は確かめられていたか。   | 〔知識及び<br>技能〕 | (2)<br>イ | 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。                                      |
|             | フロアからの質問に的確に返答できていたか。   | 話すこと         | ア        | 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 |
| 構<br>成<br>力 | 序論（つかみ）で興味をもたせることができたか。   | 話すこと         | イ        | 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。         |
|             | 効果的な構成になっていたか。  |              |          |   |
| 表<br>現<br>力 | 話し方は適切だったか。<br>声の大きさ・抑揚・間の取り方・身振り手振り・表情・姿勢・資料提示のタイミング・語句や文の使い方・言葉遣い | 話すこと         | ウ        | 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。              |
| 内<br>容      | プレゼンの企画内容について納得できたか。  | 聞くこと         | エ        | 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること。      |



【実際の評価シート】

| 評価シート       |   |  |
|-------------|---|--|
| 取<br>材<br>力 | 情報の信頼性は確かめられていたか。   |  |
|             | フロアからの質問に的確に返答できていたか。   |  |
| 構<br>成<br>力 | 序論（つかみ）で興味をもたせることができたか。   |  |
|             | 効果的な構成になっていたか。  |  |
|             | プレゼンの企画内容について納得できたか。  |  |
| 表<br>現<br>力 | 話し方は適切だったか。<br>声の大きさ・抑揚・間の取り方・身振り手振り・表情・姿勢・資料提示のタイミング・語句や文の使い方・言葉遣い |  |
| 内<br>容      | プレゼンの企画内容について納得できたか。  |  |

○参考文献

- ・「一分間で人々を説得しよう」『国語総合』（教育出版 平成29年度版）
- ・NHK高校講座国語表現「プレゼンテーションに挑戦」  
<http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kokuhyou/archive/chapter028.html>
- ・『国語科における言語活動の授業づくり入門 指導事項の「分割」と「分析」を通して』高木まさき（教育開発研究所 2013）
- ・『〈単元構想表〉でつくる！中学校新国語科授業STARTBOOK 第一学年』富山哲也（明治図書出版 2011）
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査授業アイデア例B 1三「テーマを決めて、プレゼンテーション対決をしよう～資料や機器などを効果的に活用して話す」  
[http://www.nier.go.jp/jugyourei/h27/pdf/mlang\\_03.pdf](http://www.nier.go.jp/jugyourei/h27/pdf/mlang_03.pdf)